

図書館だより

目次

開架式図書館	—平舘 英子	1
図書館目白4階「泉ラーニング・スペース」の紹介	—中澤 恵子	2
本の中の人と出会う場所	—山本 杏子	3
図書館で実りあるひと時を	—諏訪 晃子	3
扉を開けて —大学図書館を上手に使いこなすには—	—中澤 恵子	4
協定大学図書館訪問記 その1 学習院大学図書館	—田中 美也子	6
学習院大学図書館について		6
著作紹介 秋元 健治著『狙撃兵ローザ・シャニーナ：ナチスと戦った女性兵士』	—秋元 健治	7
専門分野図書所蔵状況調査について	—浜口 都紀	8



目白キャンパス中庭の八重桜

開架式図書館

平舘 英子

本学の図書館は開架式である。図書館の書庫の管理の方式には開架式と閉架式とがある。開架式は書架が外部からの閲覧者に公開されているのに対して、閉架式は書架が公開されていない図書館をさす。開架式は書籍をすぐに手に取ることができるメリットがあるが、閉架式に比べて、書籍の傷みや破損が進みやすく、より広い面積を必要とするデメリットが言われている。近年、出納作業がシステム化され、5分足らずで目的の書籍を手にすることができる自動書庫が開発され、それを導入することで利便性を高めて、閉架式を取り入れる大学図書館も増えつつある。本学図書館は、上代タノ元学長が現在の図書館を建設された際に開架式を採用され、半世紀以上続いている。様々な新しい機器の開発が進んでいる今日、そうした機器の導入を検討しつつ、なお伝統を守る重要性が認識される。本学図書館には90万冊近くの蔵書があり、小規模の大学としては少ない数ではない。図書館ではその殆どを開架式書架に収めており、メンテナンスは容易ではないが、卒業生などから開架式の伝統を守るようにとの声は多い。何故、開架式が求められるのか。

貴女が、目的の書籍を求めて図書館を訪れたのであれば、探し当てたその書籍の周囲を眺めてほしい。他にも関連する書籍があることに気がつくかもしれない。或いは、目的の書籍とは関係なく、手に取りたい書籍が見つかるかもしれない。また、貴女が新入生であれば、開架式の書籍の背表紙を眺めながら、図書館を一巡し、興味のある書籍を探してほしい。知の世界の広がりを実感しながら、新しい興味に出会うはずである。開架式は、「自学自動」を目標に、学生達の学習（授業を中心とする学修を含む）支援を目的とする本学図書館の姿勢を示すものでもある。

本学図書館は、開架式の蔵書のみならず電子ジャーナルやデータベースの利用、リポジトリによる学外への発信など、学術情報センターとしても、もちろん機能している。その機能を利用し、教育・研究機関としての支援を担うものとしてレファレンス・サービスの充実がある。「調べもの、探しもの、お手伝いします」(斎藤文男による)が最もわかりやすい説明と言われるが、図書館入り口階に設置されている参考係の利用をお勧めしたい。図書館利用の方法を示唆してくれる。近年、提唱されているアクティブラーニングが行える泉ラーニング・スペース（泉会のご寄付による）の開設や、学習支援のためのラーニング・サポーターの滞在も始まっている。開架式の蔵書と電子媒体とを共に利用できる本学図書館の積極的な活用を期待したい。

(館長・日本文学科教授)

図書館目白4階「泉ラーニング・スペース」の紹介

本学学生保護者の会である泉会からご支援をいただき、2015年11月25日(水) 図書館目白4階に新たな学修スペース「泉ラーニング・スペース」が誕生した。当スペースの座席数は52席(ラーニング・サポーター用2席含む)、面積は94.9m²であり、可動式机・イスを備え、自由にグループ学修などができ、インターネット環境も整っている。2016年2月15日までに少なくとも974人の利用があり、利用者アンケートの「ご利用になった机・イス・ホワイトボード・機器類等で気に入ったものを教えてください。」という質問への回答とし



泉ラーニング・スペース全景と電子黒板

ては、「イス」と「机」が多くあげられている。

当スペースは各種機器類を備え、『図書館だより』No.154「図書館(目白)4階新スペース(ラーニング・commons)のご案内」で紹介しているとおり、様々なスタイルでの学修ができる。電子黒板、インタラクティブ機能内蔵プロジェクター(卓上投影用)、モニター付大型テーブル席は、附属品を必要としない限り自由に利用できる。後に紹介する授業使用では、事前に利用機器を申し出てもらうので、機器類が積極的に利用されている様子が窺える。また、個人学修において



インタラクティブ機能内蔵プロジェクター

も需要が高いのは貸出ノートパソコンである。各種機器の貸出・利用方法については、図書館2階カウンターで案内している。さらに当スペースでは、学科・専攻推薦を受けた学部生(上級生)、大学院生がラーニング・サポーターとして、月～土11:20～17:50の間、学修相談を受け付ける。現在、ラーニング・サポーター登録者数は14名(学部生4名、大学院修士課程(博士課程前期)9名、博士課程後期1名)である。サポーターの専門分野など時間割は、当スペース内の掲示で確認できる。



ラーニング・サポーター

教員からの申し出により(授業の一週間前まで)、当スペースを授業(少人数クラス対象)で使用することもでき、2016年1月末までに22件の利用があった。当スペース設置の主たる目的は、学生の学修支援環境を整え、自学自習の支援をすることであるが、まずは教員に授業で使用してもらい、機器などの使い方も学生に教えることで当スペースを学生に浸透させてほしいと考えている。

イベントとして、教員によるミニ講座の企画も募集している。ミニ講座の開催情報は、JASMINE-Navi、図書館ホームページなどに掲示するので、ぜひご参加いただきたい。現在までの開催状況及び予定は次のとおりである。

◇日本語日本文学文献検索と日本語語彙検索(日本文学科 坂本清恵先生) 12月14日(月) 12:10～12:40

◇テーマ:音楽、情報、図書館(正式タイトル未定)(家政経済学科 後藤敏行先生)

3月24日(木) 13:00～14:00 ゲスト:尾畑里美氏(ソプラノ歌手)

(館員・学修支援部会事務局 中澤恵子)

本の中の人と出会う場所

山本 杏子

私は、学年が上がるにつれ大学図書館に通うようになってから、本を読むときの楽しみができました。それは、いわゆる堅苦しい本にほぼ必ずある「まえがき」「あとがき」の類です。

大学生活では、必ず自分を表現する場があります。意見や感想を書くレポート類や実習での制作物、課外活動での成果などは、全部自分を表現しているといえます。それらには、自分や仲間の名前がつけられます。出来上がったものを見たときには、それぞれ抱く思いがあると思います。上手くできずに悔しかったり、達成感でいっぱい嬉しかったり、誰かのことを考えたり、…。

そんな、何かを表現した結果への思いは、本や論文を書いた人も同じだということが、「まえがき」「あとがき」からは分かるのです。力量不足だと思いながらも書き上げた内容、この本を読んでもらいたい人、協力してくれた機関への感謝、執筆中の思いがけない発見や事件、…様々なことが書かれています。本は人によって、人のために作られているということが感じられるのです。

本の中には人がいる。背表紙を見て本を開くということは、人に話しかけるようなもの。読むことは、話を聞くようなもの。読んで何かを思えば、それは会話をしているようなもの……といえるのではないのでしょうか。本を通じて、専門家など大人と同じ経験を辿れることは、大学生ならではの経験だと思います。

大学図書館では、長い歴史の中で集まった色々な本があなたのことを待っています。他の図書館や、見つけたい本への橋渡しもしてくれます。これらは、調査研究に役立つだけでなく、幅広い人脈を築くように、自分の世界を広げるチャンスになると思います。ぜひ、たくさん本がある、たくさん人がいる図書館のことを、もっと好きになってみてください。（史学科・3年次学生）



図書館で実りあるひと時を

諏訪 晃子

皆さんは図書館について、どのようなイメージを持っていますか。もしかしたら、なんとなく近寄り難い、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ですが、今まではほとんど図書館を利用してこなかった方でも、大学生活では、図書館へ行く機会がぐっと増えると思います。だからこそ、課題に使う本を借りるだけ、レポートを作成するだけ、ではあまりにもったいない。

是非一度、館内を歩き回って、様々な棚を眺めてみてください。そして面白そうな本があれば、迷わず手に取りページを捲ってみてください。興味のある分野に関する棚はもちろんですが、そうでない分野の棚でも、ずらりと並ぶ本の中から心惹かれるものがきっと見付かることでしょう。私自身、元々探していた本だけでなく、その近くにあった本に読み耽ってしまった経験があります。また、偶然見掛けて読んだ本の内容が、別の関心ある物事を理解する上で役立ったこともありました。このように思わぬところで素晴らしい発見や繋がりがあるかもしれませんし、一生の宝物となる本に出会えるかもしれませんね。幅広く本に触れることは新たな知識や視点の獲得へ繋がり、自分の世界を広げてくれます。それは人生の中での大きな財産です。いくらあっても邪魔にはなりません。また、自身を見つめ直すきっかけともなります。

図書館は静かな空間ではありますが、その静寂は、決して堅苦しくはなく、穏やかで充実したものです。読書をするにも、ソファで雑誌や新聞を読むにも、或いは閲覧席で勉強をするにも、この沈黙はとても心地よく、集中して取り組むことが出来ます。もし何か分からないことがあれば、職員の方に尋ねてみるのも良いでしょう。優しく丁寧に教えていただけます。

大学生としての四年間は、恐らく皆さんが考える以上にあつという間です。存分に図書館を利用して、どうか限りある時間を有意義に過ごしてください。（文化学科・3年次学生）

扉を開けて ー大学図書館を上手に使いこなすにはー

皆さんは日本女子大学図書館をどのように利用されていますか。課題が出された時や試験期しか利用しない？それでは思い通りの成果が得られません。図書館を上手に使いこなすには、普段から慣れ親しんでおくことが大切です。資料もスタッフも効果的に活用し、有意義な時間を過ごしましょう。まずは、図書館の扉を開ける前に――

☆日本女子大学図書館は目白・西生田両キャンパスにあります☆

本学の学生・教職員・卒業生など利用資格をお持ちの方は両館を利用できます。開館日程や開館時間が異なりますので、来館前に図書館ホームページ等で確認することをお勧めします。



☆利用カードの交付を受けましょう☆

学生証、教職員証を持参の上、2階カウンターで手続きしてください。

卒業生は身分証明書不要です。利用カードは目白・西生田共通で、登録した本人のみ有効です。

図書館への入館、図書の出納などには利用カードが必要です。

☆資料の探し方 ①直接書架へ行きましょう☆

この図書館は開架式です。図書・雑誌を書架で直接手に取り見ることができます。

資料は、和書、洋書、雑誌、年鑑・白書類、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて置かれています。また、同じ主題（テーマ）が集まるよう、和書は日本十進分類法（NDC）、洋書はデュイ十進分類法（DDC）により分類され、書架に並んでいます。

なお、和装本、AV資料（視聴覚資料）など、一部の資料についてはスタッフが出納いたします。利用を希望する場合は、カウンターまで申し出てください。

☆資料の探し方 ②OPAC (Online Public Access Catalog) で検索しましょう☆

書名または著者名、あるいはキーワードがわかっている時は、OPACで本学の蔵書を検索し、請求記号と配置場所を調べることができます。OPACは図書館ホームページから利用してください。インターネット環境があれば、どこからでもアクセスできます。

日本女子大学図書館 HP Web サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/>
 日本女子大学図書館 HP 携帯サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/mobileopac/>

☆資料の探し方 ③参考係に相談しましょう☆

参考係は皆さんが必要とする文献や情報を探し出すサポートをしています。資料の探し方がわからない、必要な資料が見つからないという時はぜひ相談してください。

☆図書を借りましょう☆

借りたい図書を見つけたら、利用カードと一緒にカウンターへ持参してください。貸出は必ず本人が手続きしてください。なお、図書の返却が遅れている間は貸出できません。図書を延滞すると、遅れた日数分だけ貸出停止になりますので、ご注意ください。

☆My JWULIS を活用しましょう☆

My JWULIS (Japan Women's University Library Information System) は図書館が提供するオンライン・サービスです。OPAC の検索結果から予約 (貸出中図書予約, 他キャンパス図書館所蔵図書取り寄せ) ができるほか, My JWULIS のメニューを選んでログインし, 利用状況の確認, 貸出更新, 予約の変更, 検索式・検索結果の保存をインターネット上で行うことができます。

☆図書館の施設を活用しましょう☆

図書館には、新聞や情報誌があるブラウジングコーナー、DVD・ビデオ・CD など楽しめるコーナー、図書館資料を使ってグループで学修するグループ研究室、学術情報検索に加えて Office2013 やホームドライブを使用できる JASMINE 端末 (JASMINE アカウントでログイン)、メディアセンター常設 PC や貸出ノート PC 用情報コンセントなど、様々な学修スペースがあります。

☆図書館のイベントに参加しましょう☆

♪2016年度に関しては、図書館ホームページや JASMINE-Navi、館内掲示にてお知らせします♪

①図書館開催の講習会に参加しましょう

図書館では、図書館利用のエッセンスを効率的にまとめた、資料の探し方やデータベースに関する講習会を開催しています。ふるってご参加ください。

②「学生が読みたい本」に応募しましょう

図書館では、年2回 (前後期各1回) 「学生が読みたい本」を募集し、研究目的に限らず、大学図書館にあった方が良くと思う本、読みたい本のリクエストを受け付けています。

2015年度は前期5月8日(金)～19日(火)、後期10月1日(木)～8日(木)に募集を行い、前期・後期合わせて目白118件、西生田264件の応募がありました。購入された図書は背に「学生が読みたい本」のシールを貼り、入口フロアにある専用の書架に別置されています。

なお、研究のために必要な図書の購入に関しては、随時、参考係にて受け付けています。

☆協定を利用しましょう☆

日本女子大学図書館は、学習院大学図書館 (2009年11月1日施行)、お茶の水女子大学附属図書館 (2011年11月1日施行)、跡見学園女子大学図書館 (2013年11月1日施行) と図書館相互利用協定を締結しています。f-Campus (5大学単位互換制度) も併せ、下記の表にてご紹介します。各図書館の規則・マナーを守って利用しましょう。

	図書館相互利用協定			f-Campus (5大学単位互換制度)
協定校	学習院大学図書館	お茶の水女子大学 附属図書館	跡見学園女子大学 図書館	学習院大学、学習院女子大学 立教大学、早稲田大学
対象者	本学発行の学生証・教職員証所持者			f-Campus 受講証を 所持する学生
サービス 内容	館内閲覧、複写 図書の貸出	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写

*詳細は、図書館ホームページ「協定校利用案内」(<http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>) 参照。

そろそろこの辺りで、大学図書館を上手に使いこなすための予備知識インプットは終了しましょう。さあ、それでは実際に図書館の扉を開けて—— お待ちしています！

(館員・閲覧係 中澤恵子)

協定大学図書館訪問記 その1 学習院大学図書館

田中 美也子

皆さんは協定校の大学図書館があることを知っていますか？私は協定校の存在も知りませんでした。今回協定校の大学図書館に行く機会があり、行ってみると私たちの大学とは異なる魅力がいくつもあり、今では度々通うようになりました。

私たちの大学図書館の協定校というのは学習院大学とお茶の水女子大学、跡見学園女子大学の3校です。今回は学習院大学図書館について紹介したいと思います。学習院大学内にはいくつかの図書館がありますが、その中で利用できるのは、大学図書館と法学部・経済学部図書センターのみです。

大学図書館は四階建てで、一階が一般図書、二階が参考図書、三階が洋書、そして四階が休憩室となっています。閲覧席も多く確保されており、とても利用しやすい雰囲気です。図書も新書が多く並べられ、文庫本棚も充実していました。また、ベストセラーの本や資格試験の本棚もありました。さらにカウンター貸出以外に自動貸出機もあり、とても便利です。

初めて学習院大学図書館に入るときはカウンターにつながるインターホンを押してから入りますが、利用カードを作れば次に利用するときからこの利用カードで入退館が可能になります。利用カードがあると自動貸出機も利用できますし、オンラインサービスの My GLIM を利用すると貸出期間延長や予約もできます。

法学部・経済学部図書センターは東二号館の三階から七階にあります。名前の通り法学部と経済学部のより専門的な本が数多く並べられています。とても広々としていて、初めて入ったときは博物館や美術館を思わせるような雰囲気でした。

協定校の大学図書館にはまだまだ沢山の魅力があります。ぜひ協定校の図書館にも足を運び、自分なりにそれぞれの大学図書館の利用の仕方を工夫してみてください。

(物質生物科学科 2 年次学生)

学習院大学図書館について

学習院大学図書館は、本学が現在協定を結んでいる3つの大学図書館の中で、一番初めに相互利用協定を締結した図書館である。また、唯一貸出が可能な図書館でもある。

山手線目白駅の改札から目白通りをしばらく右に進み、学習院大学正門に入って木立の中を進んだ左手に位置する4階建ての建物で、本学の目白キャンパス図書館と同年、昭和39(1964)年にオープンしている。ころなしか、コンクリートうちっぱなしの外観など、本学の図書館(目白)の利用者にとっては親しみ深い印象ではないだろうか。正門は東京メトロ副都心線の雑司が谷駅からも近い。2010年度からは本館だけでなく、法学部・経済学部図書センターの利用も可能となり、幅広い分野での協力が実現している。「相互」利用協定なので、学習院大学の学生、教職員の方々も本学図書館の利用が可能となっている。

今回は、相互利用協定についてこれまで知らなかったという物質生物科学科2年生の田中さんに、実際に学習院大学図書館を利用した上でレポートを書いていただいた。

レポートにもあるとおり、本学の学生、教職員は、学生証または教職員証を提示することにより、利用カードの即日発行を受けられる。ただし、試験期間でそれぞれの所属学生の利用が多い1月、7月には、利用を休止している。利用の際は、学習院大学図書館 HP で開館状況を確認すると共に、本学図書館の HP の「協定校利用案内」(<http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>)をよくご覧の上、ルールを守って利用していただきたい。

著作紹介 秋元健治著『狙撃兵ローザ・シャニーナ:ナチスと戦った女性兵士』 秋元 健治

この本は、昨年10月に現代書館から出版された歴史小説で、東京新聞と中日新聞でも紹介されました。ローザ・シャニーナは、第二次世界大戦期にソ連で知られた実在の女性兵士です。若く二十歳で死んだ彼女は、大戦中にソ連の戦争遂行のためのプロパガンダとして利用されたひとりでした。

現在でもローザ・シャニーナに因み、アルハンゲリスクのシャングリヤストロイエフスコエといった町には、「シャニーナ通り（ウリツァローズィ・シャニーノイ）」と名づけられた路地があります。しかし人びとは、昔も今もローザが軍の狙撃手だったこと以外なにも知りません。彼女は日記を書き残していましたが、それ以外にローザ・シャニーナの実像を知る手掛かりはほとんどないからです。

ローザが生きた時代、ソ連における共産主義の思想では、人民の階級間に差別はなく、男女においても同じく差別はないとされました。その思想にくわえて数千万人もの（男性の）兵士が戦死したので、女性を兵士にすることが必要だったのです。大戦中、多くの女性が兵站や看護医療の分野だけでなく、前線で歩兵や戦車兵、狙撃兵、また航空部隊の操縦士として任務につきました。

独ソ戦時の一九四三年、ソ連軍には二千人以上の女性狙撃兵がいて、そのうち千五百人以上が戦死しました。ソ連軍は、射撃学校を修了した者、各部隊内の射撃優秀者から狙撃に特化した部隊を編成しました。

本書の主人公のローザ・シャニーナは、最優秀で狙撃学校の訓練課程を終え、実戦部隊に配属されます。彼女はまだ十九歳でした。その後、女性だけの狙撃部隊がつくられて、ローザはカミーラ小隊長のもとで実戦に参加します。ローザは、狙撃という殺人行為を重ね、それとともに悲惨な戦場と軍隊に蹂躪された街を目の当たりにし、彼女の気持ちもしだいに変わっていきます。

兵士となる前、コムソモール（共産主義青年同盟）で政治運動にかかわっていたローザは、共産主義の理想でソビエト連邦が理想国家となれることを夢見ていました。しかし人命をあまりにも軽視した人民委員会や政治将校のやり方に憤り、兵士としての責務に疑問を抱くようになります。戦場での戦闘を続けるなか、共に戦う小隊内の友や仲間を守ることがローザにとって一番大切なことになっていきます。それでもローザの友人のサーシャやイザベル、部下のポリーナなどが次々に戦死していきます。

優秀な狙撃兵で美貌だったローザは、ソ連の上層部である人民委員会の目にとまります。ローザ・シャニーナの写真と記事は新聞に大きく掲載され、彼女は戦争プロパガンダに利用されるようになりました。本書では、ローザを英雄に仕立て上げた新聞記者モルチャノフ、ほかに徴兵された兵士ニコライとの恋愛も描かれます。しかし、ローザにとってどちらの恋もかないませんでした。

その後、ローザは幾多の戦場を生き残りますが、一九四五年一月二十七日のゴウタブ市街地攻防戦で重傷を負い、翌日の夜明け前に死にます。彼女の遺体は、部下たちの手でアラヤ川の岸辺に近い土手の脇に埋められました。

ローザの死後、ソ連軍はドイツ軍を東プロシアから駆逐し、ハンガリーの首都ブダペストをドイツ軍から奪還、一九四五年五月にジューコフ元帥が指揮するソ連軍はベルリンを制圧しました。そしてフランスのランスで降伏文書が調印され戦争が終結しました。

第二次大戦に、ソ連で英雄のひとりとして知られた女性兵士ローザ・シャニーナの遺体は一九五三年になって掘り起こされました。それは祖国の英雄にふさわしい立派な墓に移すためでした。彼



女の亡骸を新しい墓に埋葬するとき、華やかな式典が催されましたが、それは祖国ソビエト連邦への忠誠や愛国心を高揚するための催事のひとつだったのです。

本書では、ローザの死から十数年後にアイザックという若い新聞記者の視線から物語が描かれています。彼は、過去のローザの足跡をたどります。ローザがなにかを信じ、あるいはなにかを懸命に信じようとして生きたこと、そして彼女が大切にしたり友や仲間とのできごとを調べ、書き綴ったのが本書ということになります。

(家政経済学科教授)

2015年10月発行 現代書館 301頁 * 目白購入予定

専門分野図書館蔵状況調査について

浜口 都紀

大学図書館にとって、選書はきわめて重要な業務のひとつである。ことに、本学のような理系を含む複数の学部と大学院をもつ大学では、多様な専門分野に目配りしつつ初学者の学習にも配慮し、更に全体の蔵書構成も考えるといういささかアクロバティックかつ複眼的な姿勢が必要となる。

こうした日常的な選書とは別に、研究者からのご意見を選書に反映させるための直接的な手段として、図書館では昭和60年以降、「専門分野図書館蔵状況調査」を実施している。年に1回、教授会で選出される図書委員の先生方に、実際の書架状況を見た上でご専門の分野に関して不足している図書、雑誌などについて指摘していただくのである。この制度の発足当時、図書委員会委員は各学部から2名ずつ選出されており、単年度で全ての分野をカバーすることはできないものの、長い目で見れば幅広い分野についての所見が集まるだろうという見込の下、継続して実施されてきた。

しかし平成23年度より、選出される委員が各学部1名ずつになり、一度の調査でチェックできる範囲が狭くなると共に、学科と図書館のつながりが細くなることが懸念されるようになった。このため図書委員の中から「委員の人数減少への対策として、各学科1名の教員に所蔵調査を依頼してはどうか」との意見が出され、図書館運営委員会での検討の結果、全ての学科から選出された教員による調査をこの年から開始したのである。

書架を見ていただくと一口に言っても、大型本を含む和洋図書、和洋雑誌、参考図書、最近ではオンライン資料など、設置場所も多岐にわたりなかなか大変な作業である。結果として、全フロアをあちこちと歩き回っていただくことにもなる。図書館側は全館員がご案内とその後の調査、対応等を担当するが、先生の研究分野、担当している授業などをあらかじめ調べ、関連すると思われる分類番号を頭に入れた上で館内をご案内するよう努めている。実際に館内を歩いていると、資料面のみならず施設に関するご要望や、ご自身の利用の状況、研究分野の動向などについて伺えることもあり、図書館側からも提供しているサービスをご案内できる貴重な機会なのである。これまでも数多くの資料の推薦と共に、掲示や施設面の不備へのご指摘、図書館システムへの要望などのご意見をいただき、当初の目的であった蔵書の充実にとどまらない様々な気づきの契機となってきた。今後とも、このような率直な意見交換が長く続くことを願っている。

(図書館課長)

編集後記 新入生の皆さんに向けて、在学生による本学図書館および協定大学図書館の紹介を掲載した。ぜひお気に入りの場所を見つけてほしい。卒業される皆さんは簡単な手続きで引き続き大学図書館をご利用いただける。再訪をお待ちしている。前号で開所をお知らせした目白図書館4階の「泉ラーニング・スペース」がいよいよ活動を開始した。ラーニング・サポーターによる論文作成等の援助、教員によるミニ講座の実施など、早速多くの活動が展開されている。NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」の放送も佳境に入り、学外から玄関ホールでの展示を見に来られる訪問者も多い。この後記を書いている時点では、創立者成瀬仁蔵をモデルとしたキャラクターが登場したばかりである。本学の創立が描かれるまで、一層の盛り上げを期待すると共に、本学黎明期の理念や理想が多くの方に共有されるまたとない機会をいましばらく楽しみたいと思う。(浜口)